（様式－３）

送 電 線 工 事 災 害 報 告 書 （再発防止対策）

関東支部

発生日時	令和５年３月22日（水曜日）　10時15分頃							天　候	晴れ	
災害の程度	死亡－名	負傷１名	職種：架線作業員					年令28歳	経験年数７年	
工事の種類	調査 測量	伐　採	運　搬	仮　設	基　礎	組　立	足　場	架　線	撤　去	その他
災害の種類	墜落・ 転落	転倒	物の飛 来・落下	崩壊・ 倒壊	はさまれ・巻 き込まれ	切れ・ こすれ	感電	その他		
原　　因	作業準備 の不良	作業方法 の不良	工具防具 の不良	電気工作物 の不良	作業者 の過失	共同作業 者の過失	その他			
設　　備	電圧　154kV	２回線	電線ACSR240㎜^{2}　単導体			地線GSW70㎜^{2}　１条				

災害の状況	件名	架空地線撤去作業中，架空地線と金車の間に指を挟まれ負傷
	・鉄塔建替工事に伴い架空地線の撤去作業を被災者ならびに共同作業者計５名で実施。 ・地線付属品の撤去は，地上で架空地線の巻き取りを行いながら，鉄塔上部にて地線付属品の一部であるカウンタウェイト(以下，ＣＷ)を外す作業計画であった。 ・被災者は，上部にてＣＷの撤去を３個中３個目まで終え，巻き取りを再開するため再度架空地線を動かすよう地上の延線車操作者へ巻き取り開始の合図を伝えた。 ・地上の延線車操作者は合図を受けたため，架空地線の巻き取りを開始。 ・被災者は撤去したＣＷを地上へ降ろすため金車側に体をひねった際，架空地線に付いている難着雪リングに革手袋の甲（布製）が引っ掛かり架空地線とともに金車へ引き込まれて指を挟まれた。被災後に被災者はとっさに左手を引き抜き，自ら巻き取りを止めるよう延線車操作者に無線で合図を行った。 ［被災程度］左環指挫滅切断，左中指末節骨開放骨折 ［装　　備］作業服（上・下），安全帽，足袋，フルハーネス，革手袋	
原因及び対策	1. 災害発生の主原因 (1) 被災者は，回転中の金車・ワイヤに接触するリスクを過小評価し，十分な待避距離を確保しなかった。 (2) 革手袋の甲の布製部分が，難着雪リングに引っ掛かり，金車側に引っ張られた。 2. 再発防止対策 (1) 管理スタッフや作業班長は，本災害事例に基づき，回転中の金車・ワイヤの危険性を再認識させ，十分な待避距離や，待避できない場合における安全姿勢の確保，ならびに手袋の布部分は，難着雪リングや古電線に引っ掛かりやすいことを，乗り込み時教育やＴＢＭ－ＫＹで，**（被災時の影響の大きさに照らし）**粘り強く，繰り返し教育する。 (2) 管理スタッフや作業班長は，「巻くぞ・待避したか！」「待て・待避するから！」など，声掛による安全確保の一呼吸の重要性を徹底し，管理スタッフが率先垂範してこれを励行する。	

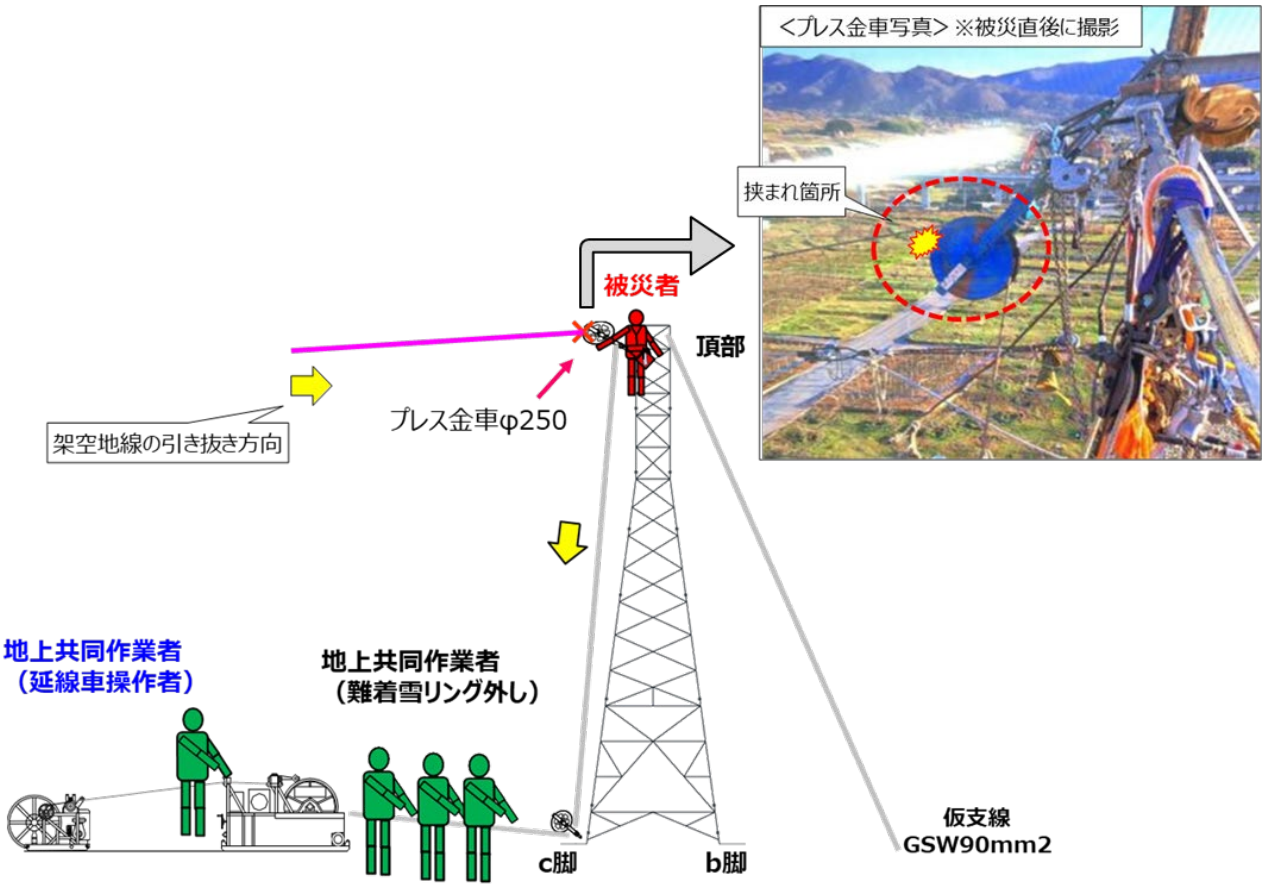
（注）1.「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし，「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に○印を付ける。

2. 災害状況の説明と共に，なるべく図面を添付すること（様式－2）。
特に感電の場合は支持物，電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－２）

災　害　概　要　図

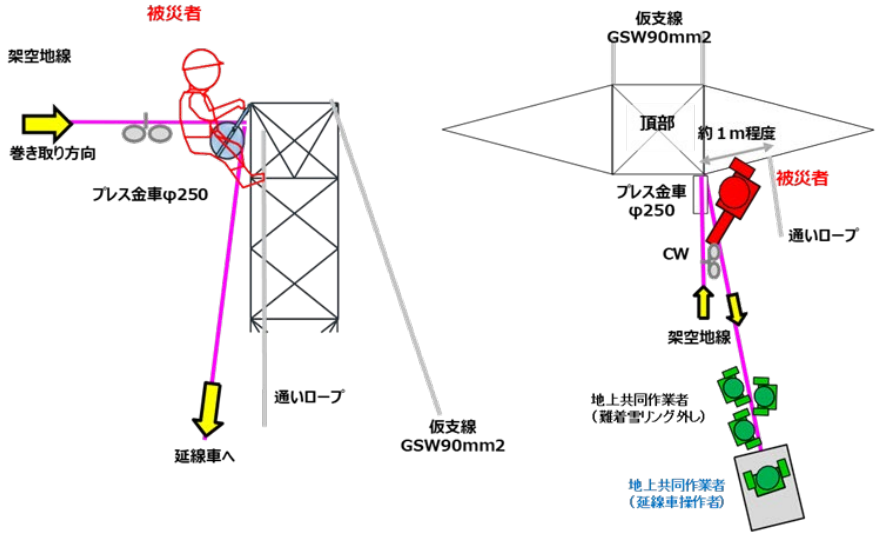
災害発生状況



災害発生までの流れ

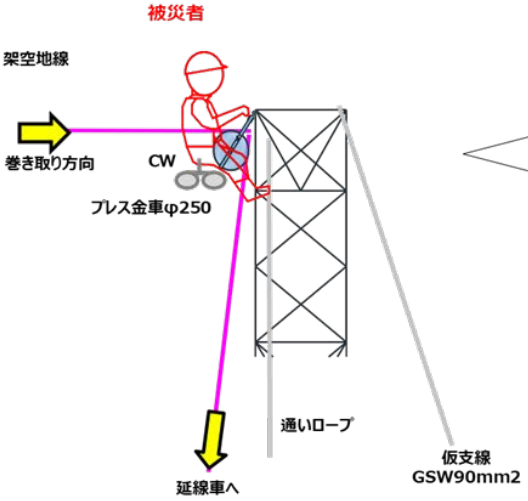
【STEP1】 CW撤去

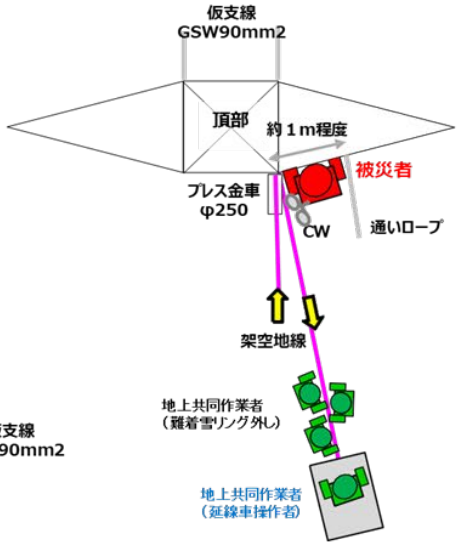
・3個中3個目のCWが撤去位置に到着したため，架空地線の巻き取りを止めた。止まったことを確認してCWを撤去し，胴ベルトにつけたフックへ固縛した。なお，2個目までは通いロープに付けてあった。



【STEP2】架空地線巻き取り

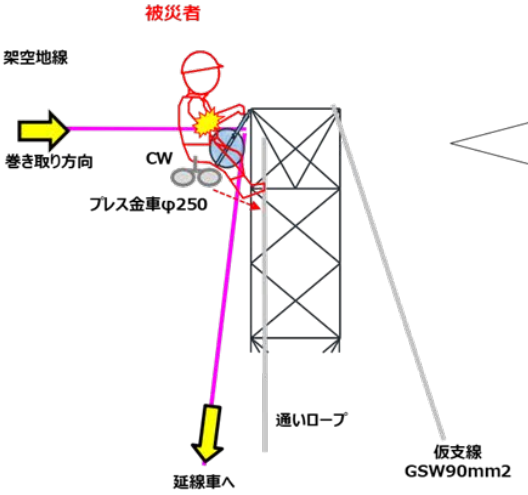
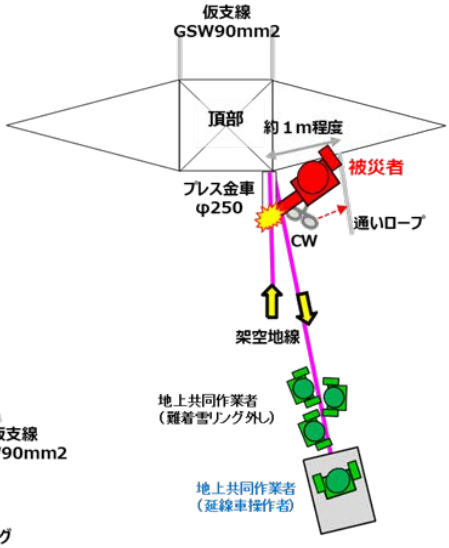
・CWの撤去が完了したため，被災者は延線車操作者へ無線機を用いて巻き取り開始の合図を行った。
この時，動いている金車・架空地線のすぐ近くにいた。





【STEP3】撤去したCWを通いロープへ預ける　※災害発生

・被災者は撤去したCWを地上へ降ろすため金車側に体をひねった際，架空地線に付いている難着雪リングに革手袋の甲（布製）が引っ掛かり架空地線とともに金車へ巻き込まれて指を挟まれた。被災後に被災者はとっさに左手を引き抜き，自ら巻き取りを止めるよう延線車操作者に無線で合図を行った。



難着雪リング
（イメージ）